

教育 かしま

第58号

発行日
令和6年6月15日
発行
鹿嶋市教育委員会
連絡先
鹿嶋市教育委員会 総務就学課
TEL0299-82-2911 (内線521)



(電子版はこちらから)

地域の特色ある教育活動を応援し、開かれた教育環境を推進するための情報を掲載していきます。

ラーケーションが始まりました

鹿嶋市では、児童生徒が校外における体験活動等を企画し、平日に保護者等と活動できる機会を確保することを目的として、年5日を上限に「ラーケーション」を実施することになりました。学校が休みの日には行けない施設などに出かけたり、体験したり、平日だからこそできる校外活動を計画してみてください。

「ラーケーション」では、授業の代わりとして平日に子どもと保護者が一緒に体験活動をする日は、登校しなくても欠席にはなりません。

「ラーケーション」は、「ラーニング」(学習)と「バケーション」(休暇)の造語で、「余暇中に学ぶ」という意味です。英語では「learning vacation」です。

◆活動の例

- 平日の水族館や博物館に出かけましょう。しっかりと観察でき、新たな発見があるかもしれません。
- 気分は研究者！興味のあること、疑問のあることをとことん調べてみよう。
- 実際の大学や専門学校の様子、大学図書館や周辺の街の雰囲気を感じに行こう。



◆申請の流れ

- ①ラーケーションカード(右図)に日程、場所、内容などを記入し計画を立てる
- ②保護者が学校に申請(原則1週間前まで)
- ③体験活動
- ④子どもと保護者が話し合い、体験活動の振り返り



◆注意

- 取得上限は年5日です。
- 受けられなかった授業内容のサポートおよびラーケーションを取得できない日や期間については各学校にご確認ください。

鹿嶋勤労文化会館の愛称が 高正 U&I センターホール に

鹿嶋勤労文化会館のネーミングライツパートナーが「株式会社 高正建設」に決定し、4月30日に締結式が行われました。これにより5月1日から、愛称が「高正U&Iセンターホール」になりました。締結式では同社の高橋社長が「Uはあなた、Iはわたしという意味。当社が地域に貢献する第一歩にしたい。」とあいさつされました。



鹿嶋市の校長先生たちが集まって 校長研修会を開催しています

毎月、市内17の小中学校長に鹿島高校附属中、清真学園、特別支援学校の学校長が加わり、教育センターにて校長研修会を開催しています。研修会の冒頭で教育長が市の教育施策についての指導、その後、学校が抱える諸課題について校長間で協議しています。

県立や私立学校の校長を交えた取り組みは全国的に見てもめずらしく、これにより市の教育施策の共有化が図られ、同じ方向を向いて教育が進められています。



鹿嶋市の学校教育



鹿嶋市の独自、先進的な取り組みや優れた実績に「GOOD」をつけました。

鹿嶋市では、「地域が育て、地域を創り、未来を拓く鹿嶋っ子」をスローガンに掲げ、「知」「徳」「体」のバランスを重視した教育を推進しています。

特に「知」においては、未来を生き抜く子どもたち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる言語能力や数理的思考力等の資質・能力を確実に育成していくため様々な取り組みを展開しています。令和6年度の主な事業を紹介します。

国語 小中学校ともに全国・県（茨城県は全国的にも上位）を上回る成績(令和5年度)

子どもたちの「国語力」を一層高めるために、小学4年生以上を対象に、新聞記事を題材にした読解教材「よむYOMUワークシート」を**本格**導入します。新聞記事の内容や図表・グラフなどの資料を読み解くことで、文章や資料を読む力や要約すること、書くことなどの表現力、伝える力の向上が期待されます。



算数・数学 子どもたちの主体性や、理解度に応じて、2つ以上のコースに分けて学習する「習熟度別学習」を中学校の数学、一部の小学校で取り入れています。少人数に分け、きめ細かな指導を行うことで、児童生徒の理解力の向上や論理的思考能力の育成を目指します。

英語 令和5年度英検3級相当以上生徒数割合（国目標50%）鹿嶋市 59.2% 県 53.2% 全国 50.0%

文部科学省から特別の教育課程認定を受け、各校にALTを配置し、小学校1年生から英語授業のほか日常的なやりとりを通して、ネイティブコミュニケーションに慣れ親しみ、異文化の理解促進も図っています。

また、英語力向上スーパーバイザーとしてオーストラリア国籍の職員を採用し、鹿嶋市独自の英語教育カリキュラムの作成および授業改善や授業のサポートを行っています。

さらに、ALTによる英会話教室「イングリッシュ・ラウンジ」や「イングリッシュ・アーバン・キャンプ（体験型英語学習施設TOKYO GLOBAL GATEWAYにて実施）」など、学校以外にも様々な英語の学習機会を設けています。

（令和5年度調査）

情報教育 授業でのICT機器活用率（小）市51.5% 県26.9% 全国28.2%（中）市55.9% 県40.0% 全国28.1%

GIGAスクール構想において整備した、学習用ノートパソコンや電子黒板などICT機器を効果的に活用することで、子どもたち一人一人の特性や理解度等に合わせた学習や他者と協力しながら学習を深める機会を充実させ、学びの質の向上を図ります。令和4年度から鹿嶋市全校に取り入れた英語に加え、本年度は小学5年生以上の算数・数学に「デジタル教科書」を導入しました。視覚や聴覚を用いて学習することにより、理解を促すことが期待できます。また「AIドリル」は、個人の習熟度や理解度に合わせて問題が出題されるため、一人一人に合わせて家庭でも学ぶことが可能です。

～鹿嶋市授業改善プロジェクト～

「教師の『教えたい』ことを児童生徒の『学びたい』ことへ」



著名な大学教授やGIGAスクール構想に直接かかわった豪華な講師陣

令和6年度は表のとおり、4つの教科・領域で「授業改善プロジェクト」に取り組みます。

教科・領域	学校	講師
国語	鹿野中、豊津小、鹿島小	大妻女子大学・教授 樺山 敏郎 先生
算数・数学	鹿島中、波野小、豊郷小、三笠小	文教大学・教授 永田 潤一郎 先生
外国語（英語）	高松中、平井中、高松小、平井小、鉢形小	敬愛大学・教授 向後 秀明 先生
情報教育	大野中、大同東小、大同西小、中野東小、中野西小	文科省学校 教育情報化推進専門委員 平井 聡一郎 先生



このプロジェクトでは、講師から専門的なアドバイスを受けながら、小中一貫教育をふまえ、中学校区ごとに、小中9年間の学びの系統を意識した授業改善を推進しています。

このほか、鹿嶋市教育委員会が作成した「授業改善プロジェクトガイドブック」を全教職員に配付し、常に授業づくりや教員研修に活かせるようにしており、鹿嶋市の先生は、子どもたちのために日々スキルアップに努めています。



鹿嶋市の社会教育

社会教育とは、学校の教育以外の全ての教育活動で、主に青少年や成人に対して行われる教育活動を指します。

鹿嶋市では、社会教育の振興（生涯学習の充実）や文化芸術活動の推進に関する業務を担当する「社会教育・文化振興グループ」と、市内の文化財の保存・管理を行いながら、市の歴史や文化を広く周知していく業務を担当する「文化財グループ」の2グループからなる社会教育課のほか、スポーツ推進課や公民館、図書館が関係業務を行っています。

文化財



茨城県に2つしかない国宝のうち、1つは鹿嶋市にある（直刀黒漆平文大刀拵）

ちよくとうくろうるしひょうもんたちしらすえ

鹿嶋市には91件の指定文化財（2件の国選択文化財含む）があり、調査、研究、保存そして公開に取り組んでいます。令和6年度は鹿嶋市の文化財等のデータベース化（文化財デジタルアーカイブ）を進めます。このことで、文化遺産を半永久的に保存できるだけでなく、ネットワーク技術の活用により、鹿嶋市民だけでなく、世界中の誰もが鹿嶋市の文化遺産を知り、調査、研究することが可能となります。



がんくう

▲市指定文化財「岩偶」

愛称；くりやっほー

家庭教育力向上推進事業



茨城県内で訪問型支援事業に取り組む28自治体のうち、全戸訪問は7市町村なかでも約500世帯を訪問するのは鹿嶋市だけ

「家庭教育力向上推進事業」のメニューに「届ける家庭教育」を加え、平成29年度から鹿嶋市家庭教育支援チームによる家庭訪問活動を行っています。

共働き世帯の増加や核家族化、生活様式の変化等から子育てへの不安や悩み・孤立感などを抱えている保護者が増加しているという社会的背景を受けて、8人の支援員が、約1年かけて小学校1年生（481人）のお宅を全戸訪問し、保護者や家庭をサポートしています。

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）



279人の委員が学校づくりを支えます。

令和4年度に市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」を目指し、コミュニティスクールを推進しています。学校と地域が一体となって学校運営に取り組み、子どもたちの豊かな学びや活力ある地域づくりにつなげます。

ハイブリッド図書館と学校図書館



全校に学校図書館が整備され、学校司書を配置している（鹿行唯一）

図書の購入、資料の収集に加え、電子コンテンツの充実に努め、従来の図書と電子書籍が共存する「ハイブリッド図書館」として充実を図り、多様な利用者のニーズに応えます。また、市内全ての小中学校に整備した学校図書館に学校司書を配置し、本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけづくりなど、快適な読書活動を促す場を提供しています。さらに、公共図書館と学校図書館がネットワーク化することで、教育課程との連携や児童生徒の読書活動の一層の充実が期待できます。

募集中

かしま子ども大学



令和元年度から始まり、今期は5期生



様々な分野で活躍する方々を講師に招き、小学5・6年生を対象に「かしま子ども大学」を開校し、学校教育の枠を飛び出した学びを提供します。令和6年度は下記内容を実施予定です（一部）。また、小学3・4年生を対象にした「かしま子どもブレ大学」は夏頃に募集します。

分野・内容	講師等
気象について	古川 武彦 先生（元気象庁予報課長）
金融教育	水戸証券（株）（ファイナンシャルプランナー）
芸術	県立近代美術館（学芸員）
多文化共生	茨城キリスト教大学（文学部文化交流学科教授）

運動を習慣化しよう！

みんなのスポーツフェスタ2024



【日時】 毎月第4土曜日10:00～12:00

（受付終了時間11:50）※12月は第3土曜日

夏季期間（6～9月）は9:00～11:00

（受付終了時間10:50）

【会場】 高松緑地運動公園（6・9・11月）、

カシマスポーツセンター（上記以外の月）

次回は6月22日（土）に9:00から高松緑地運動公園で実施します。





豊津小学校の児童たち



田植え体験

豊津小学校では5月2日、児童27人が元豊津公民館長の高安さんの田んぼをお借りして田植えに挑戦しました。また、5月10日には鉢形小学校5年生36人が鉢形地区まちづくり委員会の指導のもと田植えを行いました。児童たちは悪戦苦闘しながら丁寧に手植えしていました。



鉢形小学校の児童たち



苗植え体験

5月23日、大同西小学校の全校児童が2班（1、5、6年生と2、3、4年生）に分かれサツマイモの苗植えに取り組みました。本授業はJAなめがたしおさいの協力のもと5年前から実施しており、同校の毎年5月の恒例行事となっています。児童たちは畝に貼られた黒いマルチの穴に「斜め植え」という方法で、にぎやかに苗を植えていきました。秋に収穫される芋は「大西防災学習」で焼き芋にして振る舞われる予定です。



「マンガ かしまの歴史4 宮中野古墳群 —古墳に眠る権力者たち—」



が刊行されました

このマンガでは、小学生のヒロトとユイが「宮中野古墳群」などの市内の古墳を巡りながら、古墳を造った人々や当時の鹿嶋のムラの様子を学んでいきます。

4月30日には、市内の小学6年生全員に配布するとともに、全小中学校の図書館に配架しました。また、鹿嶋市ときどきセンター・市内の書店等で販売も行っています。ぜひ手に取ってご覧ください。

☆8月25日(日)に中央図書館で解説講座を開催

このマンガの制作者が、古墳時代の鹿嶋の様子をわかりやすく掘り下げます。詳しくは広報かしま8月1日号をご覧ください。



鹿島アントラーズ 学校訪問



鹿島アントラーズ選手による学校訪問が5年ぶりに再開しました。5月28日にチャヴリッチ選手とパレジ選手が鉢形小学校を、同29日は須藤直輝選手、梶川裕嗣選手が平井小学校を訪問し、児童たちとゲームなどを通じ交流しました。

児童たちは目の前で披露された本物のプロサッカー選手のリフティングに驚きの表情を見せていました。

今後、3年間でホームタウン5市にある全小学校を訪問する予定です。



▲現在の三笠山道路衢神

現在も社があり、境内はスタジイなどの巨樹が大切に残され、今も往時を偲ばせる場所です。巨樹や石造物（一部除外）、道路衢神の社などの一帯を保存し、後世に伝えるべく指定となりました。



『鹿島誌』の挿絵より。道路衢神と紹介され、鳥居と社が描かれています。

鹿嶋市教育委員会は、新たに三笠山道路衢神（宮中5248-4先）を市指定文化財に追加しました。
北条時鄰（ときちか）が文政6年に記した『鹿島志』には、「古来よりこの道路衢神に甘酒と草履を供えて道中の安全を祈願し、旅路に出ることが風習」と記されています。

鹿嶋の文化財 第十回 三笠山道路衢神

（どうろくじん）